

【小規模企業景気動向調査】(令和5年5月期調査 全国商工会連合会 6月23日発表分 参照)

<産業全体>

◇…コスト高の課題は残るも、サービス業の好影響を受け持ち直しをみせる小規模企業景況…◇

5月期の産業全体の業況は、採算・業況DIが小幅に改善し、資金繰りDIは大幅に改善した。行動制限のないゴールデンウィークやインバウンド需要の拡大から観光業の好材料が各業種に波及した。また、資材価格や生活必需品の値上がりに対し、価格転嫁や新規の販路開拓・自業展開等により柔軟に対応する事業者が増えつつある。人手不足等の課題は多く残るが、持ち直しの動きが広がった。

<製造業>

◇…コロナ禍から持ち直しつつも、コスト高騰が障害となっている製造業…◇

製造業は、採算・資金繰りDIが小幅に改善、業況DIは大幅に改善した。食料品関連は、資金繰りDIが大幅に改善、業況DIは小幅に改善した。観光関連の需要は伸びる一方で、巣ごもり需要の減少や、物価高騰により個人消費は冷えこむ需要格差が生じている。繊維関連は、採算・業況DIが改善し、資金繰りDIは小幅に悪化した。受注は安定し始めたが、コスト高や人手不足の影響は未だ大きい。機械・金属関連は、全DIが改善、特に業況DIが大幅に改善した。コロナ禍に比べると受注は回復しつつある。

<建設業>

◇…受注は戻り始めるも、積もる課題に先行きが不透明な建設業…◇

建設業は、売上額・採算・資金繰りDIが改善し、特に資金繰りDIは大幅に改善したが、業況DIはわずかに悪化した。コロナ禍に比べると受注も増え、資材の入荷遅れ等も解消され始めたが、慢性的な人手不足やコスト高に加え、公共事業の動きの鈍さから、先行きの不透明さに不安を感じる事業者が多い。また、働き方改革による賃上げや、労働時間の制約等、人材への課題が不安材料となり足踏み状態となっている。

<小売業>

◇…価格転嫁は進むも、消費者の節約志向の高まりに影響を受ける小売業…◇

小売業は、売上額・業況DIは小幅に改善し、採算・資金繰りDIは大幅に改善した。価格転嫁により売上額DIは伸びているが、日用品等では定番商品と比較し、安価な代替品が売上を伸ばしており、消費者の節約志向が進んでいる、とのコメントが見られた。衣料品関連は、外出機会増加の効果が顕著であり、全DIが改善、特に採算・資金繰り・業況DIは大幅に改善した。食料品関連は、全DIが改善し、中でも採算DIが大幅に改善した。耐久消費財関連は、納品遅れなども解消され始めたことで、全DIが改善し、特に資金繰りDIは大幅に改善した。

<サービス業>

◇…人手不足やコスト高の問題は抱えつつも、回復傾向が続くサービス業…◇

サービス業は、売上額DIは小幅に改善し、採算・資金繰り・業況DIは大幅に改善した。旅館関連は、全DIが改善したが、特に採算・資金繰りDIは大幅に改善した。ゴールデンウィークでの旅行や帰省、また訪日客の増加から業況は明るい、人手不足から稼働率を上げられない問題は続いている。クリーニング関連は、外出機会増加による需要回復から、全DIが改善し、資金繰りDIは2桁ポイントの大幅改善となった。一方で、チェーン店の増加等により競争が激化し始めている。理・美容関連は、売上額・業況DIは小幅に改善し、採算・資金繰りDIは大幅に改善し、安定した状況が続いている。

産業全体				製造業				建設業			
DI	4月	5月	前月比	DI	4月	5月	前月比	DI	4月	5月	前月比
売上額	90	109	1.9	売上額	126	121	▲05	売上額	50	64	1.4
採算	▲362	▲316	46	採算	▲366	▲341	25	採算	▲421	▲381	40
資金繰り	▲283	▲212	7.1	資金繰り	▲275	▲237	38	資金繰り	▲348	▲261	8.7
業況	▲183	▲144	3.9	業況	▲218	▲149	6.9	業況	▲210	▲228	▲1.8

小売業				サービス業			
DI	4月	5月	前月比	DI	4月	5月	前月比
売上額	20	42	2.2	売上額	167	209	4.2
採算	▲426	▲370	5.6	採算	▲235	▲172	6.3
資金繰り	▲343	▲266	7.7	資金繰り	▲165	▲81	8.4
業況	▲273	▲225	4.8	業況	▲31	27	5.8

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 6月9日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

景況等...企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは悪化すると見込んでいる。

需 要...個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。

生 産...生産は、一部に弱い動きが見られる。

雇 用...有効求人倍率は、前月を上回った。雇用者所得は、弱めの動きとなっている。

金 融...倒産件数は、前年を上回った。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（6月7日発表分）

管内の景気は、持ち直している。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。設備投資は、増加している。住宅投資は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増勢が鈍化している。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R4.6	R4.9	R4.12	R5.3	R5.6(予測)
全産業	▲3	3	2	5	2
大企業	6	8	10	6	6
中堅企業	▲1	10	3	11	9
中小企業	▲8	▲2	▲3	2	▲4
うち製造業	▲5	▲1	▲3	▲3	▲4
うち非製造業	0	10	7	17	9

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（6月）について

市内動向

市内では、行動制限の撤廃で人流が増加、コロナ以前のように各種催事イベント等も実施されるなど、6月の景況は、全般的に緩やかではあるが持ち直し傾向を維持。一般個人の消費活動も併せて改善されてきており、食料品にとどまらず幅広い小売業種で持ち直し傾向が見られた。製造業、建設業においても微増傾向ではあるが、改善の兆しが見られている。

ただ、一方で市内事業者の多くが、原油高騰に起因するエネルギー価格の高騰に加えて、資材等物価上昇によるコスト増加で、利益率の低下につながっているなど課題も多い。

製造業

製造業の生産活動では、5月は前月比で微増、6月でも微増のところが多い。製造業種全般においても微増傾向が続いており、高い伸びの実現は、いまのところ見込みは薄い感じである。コスト増加分の対応について、転嫁できていない事業所が多く、あらゆるコストの上昇に対して価格転嫁が追い付いていない状況となっている感じが見受けられる。

建設業

建設業全般では、公共工事の受注やリフォーム受注などで売上高は微増傾向となったところが多い。ただ大型受注等で売上は増加したものの、資材価格やエネルギー関連価格の高騰の影響に加え、人手不足による外注費増加により、利益が減少しているところも多く、価格の転嫁に課題が残っている。

小売・サービス業

飲食業や旅行業などのサービス消費関連では、行動制限の撤廃で人流が増加、コロナ以前のように各種催事イベント等が実施されはじめていることも加わり、回復基調を維持している。小売業では、特に百貨店・スーパーなどで食品関連の売上は好調を維持、その他の部門でも売上高の増加傾向を維持している。

その他小売業全般においても、一般消費者の消費活動が改善してきており、緩やかな回復が見られた。今後についても、しばらくは緩やかではあるが回復基調が続くと予想する事業者が多い。心配されている物価高が購買力を大きく下押しするには至っていない感じである。より一層の経済活動の正常化を期待する声が多い一方で、原材料費価格の高騰によるコスト増の影響を不安視する声も同様に聞かれた。